

# PROFILE .....

## 上 田 陽 一

産業医科大学医学部第1生理学教授



産業医科大学医学部第1生理学教室を平成12年11月1日より担当させていただいています。産業医科大学は、“優れた産業医の養成と産業医学の振興”に貢献することを目的に昭和53年4月に開校した目的大学です。早いもので創設以来25年の月日が経過しています。

第1生理学教室は、研究面では、山下博初代教授のもと視床下部、特に神経分泌ニューロンについての電気生理学的研究を集中して行ってきました。教育面では、神経生理学の教育を担当しています。この生理学講義と試験は大変難しく、当時は試験結果発表の掲示板前は上級生まで見に来て人だかりとなるほどでした。生理学実習は、項目によっては深夜にまでおよび、実習レポートも大変分厚いものでした。当時から基礎研究室配属制度があって、私も第1生理学でお世話になった一人です。この経験が生理学を志すきっかけとなったことは言うまでもありません。

医学教育には卒前、卒業後教育があります。卒前教育には、生理学のおもしろさを学生に伝えることを常に心掛け、自ら学ぶことの大切さと発見の喜びを体験できるよう、生理学講義、実習そして基礎研究室配属にも力を入れています。卒業後教育においては、大学院生の指導はもとより、卒業生産業医への学術支援を目的に教室主催の産業生理セミナーを新たに始めました。この3年間ですべて第5回を数えました。

研究面では、生体の恒常性維持のメカニズム解明を根本命題として、特に視床下部-下垂体系の役割を、電気生理学、分子遺伝学、行動学などを組み合わせて多角的なアプローチにより解明して

いくことを目標としています。最近、トランスジェニック動物でバゾプレッシンニューロンをGFPで光らせることに成功し、更なる研究の展開を考えているところです。また、病態生理学も重要と考え、種々の疾患モデル動物を用いた研究にも力を入れています。私たちの研究室では“夢と忍耐と運なくして新発見なし。”をモットーにしています（研究室に書いて張っています!）。

さて、第1生理学教室を引き継いだものとしてこの教室をさらに発展させなければなりません。ところが、25年前とは事情がまったく異なります。周りを見渡すと医科大学の統合、国立大学の独立法人化などの制度の大改革、コアカリキュラム、CBT、OSCEなどの医学教育の激変が起こっています。時代の波に飲まれないよう微力ではありますが精一杯努力していく所存です。

### 略歴

- 昭和62年 3月 産業医科大学医学部医学科卒業
- 平成 3年 3月 産業医科大学大学院医学研究科博士課程修了
- 平成 4年 8月 産業医科大学医学部第1生理学助手
- 平成 5年 4月 英国ブリストル大学医学部内科学訪問研究員（2年間）
- 平成 7年 4月 産業医科大学医学部第1生理学講師
- 平成12年11月 産業医科大学医学部第1生理学教授、現在に至る。